2010年2月9日
繊維部会
ブラジル日清紡　金原彰

Ⅰ.共通テーマ　2009年の回顧と2010年の展望

我々業界の2009年の上半期は、ここ数年で最も厳しかったが、下期は消費も回復し、業績も改善した。通期では前年比大幅な減収減益ではあったが、利益を確保した。

1. 原綿

1－1. 国際原綿

1）2009年の回顧

リーマンショックに端を発した世界的な信用不安によるリスク回避のため、コモディティからドルへの一時回避が起き、期近NY定期は3月には40セント／LB台まで急落した。その後、後半にかけては①景気最悪期からの脱却、②オペレーションの通常化、③綿糸値上げによる相場下支え（綿糸レベルでの供給過多、在庫過多の解消）、④世界綿花生産減による供給不足、などの要因から期近NY定期は現在70セント台をつけている。

2）2010年の展望

世界綿花需給バランスは、3年連続の減少予想でタイト感あり。これは2003／04年以来の低水準で、因みに2003／04年の高値は86．60セント／LBであった。世界経済は復調し、世界の綿花消費は2015年には125百万俵まで増加するとの見方もある。NY定期の緩やかな上昇であれば、ある程度紡績などのユーザーの価格転嫁もスムースに進むとの見方もある。

今後の世界経済の動向、ファンド筋の投機動向、紡績段階以降の採算性、天候など先の状況は読みにくいが、上記のようなことから、綿花相場は高値（60セント半ばから80セント後半）の値動きとみる。

1－2. 国内原綿

1）2009年の回顧

綿花生産量は前年比、作付面積が21．8％減、生産量が25．5％減の121万トンとなった。天候不順により、品質では繊維長は長かったが、MC が太く、短繊維含有率、糖分共に高く、これが紡績の生産に悪影響を与えた。綿花相場は低迷が続いたが、9月頃になると、国内一般消費の回復、良品質綿花の不足、来年の綿花生産の減少予想がでた。そして、世界経済の回復の兆候が見え始め、世界綿花の生産減、需要の増大が伝えられると、相場は上昇に転じ、年末には R$1．35／LB迄暴騰した。

2）2010年の展望

年が明けても、紡績のフル生産が続き、上級綿不足、綿花生産者の売り控えもあって、

相場は上昇を続け、R＄1．44／LB前後で推移しており、新綿入荷の8月頃まで不安定な相場が続くと思われる。一部では、上級綿の輸入の話もある。この綿花相場の高値、世界綿花の需要増もあって、今年の綿花植え付けは昨年並みを維持するものと見込まれる。また、現在の綿花生育期間212日から150日に短縮して2毛作が可能な ADENSADO と言う植え付けの採用が一部で始まっている。

2. 綿糸

2－1. 国内綿糸

1）2009年の回顧

2009年の国内綿糸は、上期、世界的な経済危機の影響で消費が低迷し、ここ数年で最も大きな落ち込みとなった。年当初より、多くの在庫を抱え、生産調整に入る局面もあった。下期に入り、国内の消費が急回復し、綿糸需要の増加によって在庫は減少し、相場も上昇に転じ、上期の落ち込みを挽回した。

2）2010年の展望

今年の経済成長見通しは概ね5％～6％と予測されているように、昨年とは対照的に順調な成長を続けると思われる。国内綿糸に関しては、衣料品需要の伸びに加え、輸入綿糸の拡大懸念も小さいことから、綿糸相場は上昇することが予想され、需給バランスは極めて堅調に推移すると予測している。

2－2. 空紡糸

1）2009年の回顧

2009年上期の空紡糸分野は、これまでの設備投資による設備増に加えて金融危機による輸出減が重なり需給バランスは崩れ、売値についても対前年同期比で15％ダウンと2002年以来の最安値となった。第3四半期に入り、ブラジルの経済成長と厳冬によって、ニット、ジーンズ、織物の冬物製品用途の糸販売が好調となり、空紡糸の消費は大幅に改善された。下期の空紡糸消費は対前期比で15％増、対前年同期比で10％増となった。しかし、売値については消費が改善されたにもかかわらず、2009年上期と同水準、対前年同期比では5％ダウンと、依然厳しい状況が続いている。

2）2010年の展望

年初は税金の支払、新学期に向けての学費やカーニバル等の出費が嵩み、衣類等は買控えられ、例年、上期は下期よりも売上は落ちる傾向がある。しかし、今年はワールドカップ、大統領選挙の年であることから、更には、最低給料が1月から10％近く上がったこともあり、他の分野同様に衣料分野の売上も好調と見込まれる。空紡糸の分野においても、昨年末からの冬物製品の生産が本格的に始まっていることから、販売は好調を持続すると予測する。また、国際的な原綿値上げの影響で、リング糸の代替が出来る空紡細番手糸を中心に、売値は回復基調を暫く維持していくものと予測される。

2－3. 綿糸貿易

1）2009年の回顧

2009年通期の綿糸輸出は1,656トンで、2008年実績比62．4％減少した。綿糸輸入は36,308トンで、前年比45．6％の減少となった。尚、綿糸貿易バランス、繊維製品（繊維原料除く）バランスは、大幅な赤字となっている。綿糸輸出は、主要仕向先であったアルゼンチンの輸入規制により、当国綿糸輸出は激減した。綿糸輸入（主としてインド糸）は、上期に国内市場の低迷とレアル安により前年同期比激減したが、7 月以降は国内市場の回復とレアル高に伴い増勢に転じた。

2）2010年の展望

綿糸輸出は、安価なインド綿糸に近隣諸国市場を押さえられており、当面復活する見込みはない。綿糸輸入は、2010年1月以降関税が引上げられ(14％→18％)、また世界需要回復による需給タイト化により、現為替(R＄1．75/US＄)であれば2009年並みに止まり、国内綿糸市場を撹乱するには至らないであろう。

3. 織物

3－1. 薄地織物

1）2009年の回顧

ブラジル全体の経済の流れと同じく、上半期の内外の需要減退により、通年での輸出・輸入とも減少した。2008年末からの在庫の増加、上半期の内需の減退により、織物の国内生産・販売も減少した。

2）2010年の展望

ワールドカップ・総選挙の年にあたり内需拡大が予想される中、国内生産増・輸入増・輸出漸減傾向が予想される。ユニフォーム用途は回復、一般衣料は、レアル高要因もあって、生地・製品ベースでの輸入品との競争が激化すると見られる。

3－2. 紳士・婦人服地

1）2009年の回顧

上半期は金融危機の影響で市場が急激に冷え込み、その上寒さが遅れて冬物商戦は期待はずれに終わった。下半期は経済も少しずつ落ち着きを取り戻し、消費も伸び始めた。クリスマス商戦はまずまずでショッピングセンターなどは、昨年比10％前後売上を伸ばした所が多い。年間を通しては、市場の動きがつかみにくく、厳しい年だった。

小売業界は、上半期、売上を落とした所が多かったが、下半期で取り戻した所が多い。ただ夏物衣料に関しては、雨の日が多かった為、気温が上がらず実際に売れ始めたのは12月に入ってからだった。またここ数年、紳士物の動きが悪く、紳士物専門店で婦人物専門店に参入した所が数社現れた。

アパレルは、大多数の縫製業社が売上もしくは販売数量を昨年比10％～15％落とした。特に紳士物は価格競争が激しく、利益が取れず苦戦している。

輸入業界は、上半期は急激なドル高でコストアップ、売上ダウンで苦戦した。下半期はドルが下がり落ち着いたが、動きが悪い為、卸価格の値下げ競争は相変わらず激しい。生地の輸入量は上半期20％以上ダウンしたが、下半期増加し年間では4％ダウンまで戻した。

2）2010年の展望

ブラジルは金融危機を克服し、市場も落ちつきを取り戻した。GDPは5％～6％アップ、消費は10％アップと見込んでいる。ワールドサッカーと大統領選挙があり、お金の動きは良くなるはず。繊維業界もその成長に乗って行く様に期待している。

4. ファスナー

1）2009年の回顧

衣料の輸入品は、中国産も含めて通年では11ポイントの増加となった。上期は 3 月に大きく上昇し、32ポイントの上昇だったものの、下期は前年を下回るレベルの輸入実績となった。ファスナーの輸入は一度大きく輸入数量が落ち込んだが、8月以降、回復をしてきている。

ブーツ・履物分野は2009年堅調であった。婦人・子供服分野は前半、低調、後半に少し復調を見せた。

数量面で主力分野であるジーンズ分野は、前半、在庫調整、販売不振から、顧客の生産調整の影響を大きく受けた。後半少し回復傾向が見られたが、期待していたほどの数値まで上がらなかった。然しながら、クリスマスシーズンの前売り状況は総じて好調であったとのこと。1月に入りOFFシーズンながらも受注は上向いている。2009年のこの分野への販売は、この景気動向のみならず、ポケットへのファスナー使いの減少、又　女性用ジーンズでのファスナーを使わないデザイン等、ファッションの変化があったことも影響している。

2）2010年の展望

2009年11月度から、アパレル工業生産指数が昨年を上回って来ており、ブラジル経済全体と同様に、徐々に回復傾向に入るものと見ている。また、市場在庫レベルが低下したブーツ分野での販売は、引き続き好調に推移するものと見られる。

衣料縫製は在庫調整の効果、2009年末の前売りの好調、経済の回復を背景に回復に向かうと思われる。

昨年後半、底は脱したものの、回復のスピードは予想よりも遅いものであったが、2010年のスタートは良く、今後の主力ジーンズマーケットの回復がどのようなスピードになるのかを注視している

以上